

(様式第4号) 平成29年度 第1回上田市スポーツ推進審議会 会議概要

1	審議会名	平成29年度 第1回上田市スポーツ推進審議会
2	日時	平成29年11月8日 午前9時30分から11時まで
3	会場	教育委員会 第1会議室
4	出席者	小林会長、野口副会長、大槻委員、関委員、中村委員、松本委員、宮本委員 山崎委員、渡辺委員
5	市側出席者	教育長、教育次長、スポーツ推進課長、丸子地域教育事務所長 真田地域教育事務所長、武石地域教育事務所長、スポーツ施設係長 スポーツ推進係長、東日本総合計画(株) (計画策定支援業務受託者)
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	1人 記者 5人
8	会議概要作成年月日	平成29年11月15日

協議事項等

1	開会 (スポーツ推進課長)	
2	あいさつ (小林会長、小林教育長)	
会長		今年のスポーツ行事を振り返ると、上田西高校のサッカーや、レスリングの国際大会など、若い皆さんが活躍しており喜ばしい。一方では国体の馬術競技など、予想もできない結果となることもある。スポーツの怖い部分だと感じた。本審議会では今年度、施設整備計画の議論を行うが、2027年の長野県国体も踏まえて委員からの様々な意見をうかがいながら進めたい。
教育長		本審議会はスポーツ基本法及び上田市スポーツ推進審議会条例の規程に基づき設置している。市民が心身ともに豊かな生活を送るため、生涯にわたってスポーツに親しむことは大変重要であり、若いアスリート達にとっても環境づくりが求められている。今年度はスポーツ施設整備計画の策定について諮問するが、スポーツに対する関心が高まる中、各分野の専門家の立場から、また利用者の視点から審議いただきたい。
3	新任委員・事務局紹介	
4	諮問	
5	議事	
	(1) 上田市スポーツ施設整備計画について	
	(2) 上田市スポーツ振興計画の進捗状況について	
事務局		議事(1)・(2)説明
会長		議事(1)・(2)について質問や意見があれば発言されたい。
委員		菅平高原に建設中の地域振興施設は順調に工事が進んでおり、来年9月に供用開始予定。去る10月末には上田市長や関係者とイタリアでラグビーワールドカップトレーニングキャンプ地の正式合意と調印を行った。キャンプは2019年当年だけでなく、来年度(2018年度)からイタリアチームが菅平で行い、2年に渡って12日間以上となる。また、レガシー活動つまり社会貢献活動を積極実施することとすることで、来年5~6月頃には学校や地域住民と触れ合う機会を設ける予定。W杯は地元市民や一部の者だけで成り立つものでなく、長野大学をはじめ、各学校等のボランティアなど、サポーターとして関わりキャンプを盛り上げてもらいたい。
会長		市ではラグビー競技の普及という事で、小中学校や一般対象にタグラグビーの用具の貸出を開始したとのことだが、小・中・高等学校の連携が今後重要。高校へも今後アプローチを進めていく予定か。
事務局		11/14から2週に亘って開催する秋和児童センターでの体験事業を皮切りに今後展開していく。来年度以降は高校にも普及活動を進めていく予定。
委員		まず子ども達にラグビーに親しんでもらいたい。ラグビーに限らず、体を動かす楽しさを知った上でスポーツ少年団や中学の運動部活動に進み、ラグビーに興味のある子ども達や学校の先生方が自発的にラグビー部を作りたいとなれば望ましい。

委員 スポーツは「見る」、「する」、「支える」が基本だが、「見る」スポーツが子どもたちに刺激を与え競技人口増加の要因になる。施設整備計画について、一流の競技者が子どもたちの前で試合をできるような会場を整えることで、市民からの注目度・理解度も変わってくる。多くの皆さんがスポーツ観戦を通して理解を深めることは、サポーターとして支えることにもつながり、また、やってみたいという大きな刺激になる。計画には競技者が増やすことでスポーツを支えるといった視点を取り入れたい。

委員 総合スポーツゾーン整備するとすれば、外から大勢人が来て見ることができるような観客席、駐車場、アクセス等に配慮する必要がある。これらが整備されればアマ・プロ問わずたくさんの方が訪れ、それに刺激されて子どもたちがスポーツをするようになる。そういった大局的な考えに立って、老朽化した施設を整備・集約していくことが求められる。市外県外から大勢人が来ることになれば、宿泊施設や観光施設との連携も非常に重要になってくる。

委員 施設整備計画の策定に当たり、長野国体開催を踏まえ施設改修等が進むと思うが、具体的な競技と開催場所はどのように考えているか。また、今後廃止を検討している施設はあるか。市内の各室内プールの老朽化を感じており、親子が楽しく触れ合う場所、若い方が体を鍛える場所、そしてとくに中高年の方の健康増進のための場所として重要な施設。今後の方針をどのように考えているか。それから、スポーツゾーンについて、様々な競技の大規模大会が開催できるように、総合的に集約したゾーンとなることを望む。

事務局 国体の際にどの競技を上田市に招致するかという点については、まだ明確に決まっていない。県が示しているスケジュールでは、12月中下旬に市町村や関係団体が参画する第1回準備会を開催し、その中で専門委員会等を設け、各競技の実施会場を検討、平成32年を目途に決定する予定。上田市にはソフトテニス協会から招致の要望が出されているほか、長野県体育協会が平成27年に実施したアンケート結果では、ハンドボール、ラグビー、レスリング、アーチェリーが上田市を会場として利用したいと協議団体からの要望がある。また、馬術競技がこれまでの国体での成績が良いため検討の余地はあるが、国体の施設整備基準や経費面を踏まえ慎重に考えていく。

今後廃止を考えている施設は現在のところは無いが、利用状況を見ると、一部のマレットゴルフ場や老朽化が進み使いづらいテニスコートなど、実績が少ない施設がある。これらをどうするか、今回の計画策定に当たり審議会で意見をいただき方向性を打ち出したい。

続いてプールの老朽化について、随時修繕を行っているが傷みが非常に激しく、新たに建設するとなると莫大な経費がかかる。合併後、市内には屋外プールが2か所、屋内プールが1か所あるが、これらの利用状況、そして総量コントロールという視点を踏まえ考えていかなければならない。

スポーツゾーンについては、新たにスポーツの施設を集約した運動公園ゾーンを作るということではなく、核となる既存施設に集約をしていきたいという考え。したがって城跡の体育館・テニスコートを移して、そこに他のものも集約していく趣旨ではないことを理解いただきたい。

委員 児童数の減少に伴い教員の数が減っている。教員が減ると顧問が確保できないため部活も少なくなってしまう。そして選べる運動部の選択肢が減り、加入率が下がるといった悪循環に陥っている。真田中学校はさなだスポーツクラブと連携しているため指導者を確保できいくつかの部活動が維持できているが、こうした取組を市全体に広げていかなければならない。スポーツ振興計画の実施プランの中で「総合型地域スポーツクラブの育成支援と子どもたちのスポーツ環境の整備」とあるが、これを特に進められたい。施設整備計画については、小中学生が活躍し、使いやすいような施設となることを期待する。

委員 施設整備計画はぜひ前向きに進めてほしい。国体と同じ時期に全国障がい者スポーツ大会も開催されるため、障がい者にも使いやすい施設にしていくことが一つの課題。先日、小諸市で高校の柔道大会があったが、東信地域においてひとつの高校でチームが成立している例は1~2校しかない。武道全体の部員数が非常に減っている。運動部員数が減る中、子どもたちが「ここいくとスポーツができる」というスペースを作る、また、楽しさを教えられる指導者の育成なども急務と感じている。上田市には総合型地域スポーツクラブが4つもあり比較的恵まれているため、他の自治体に上田市はこうやって頑張っているとPRになるような取り組みを期待する。

委員 バドミントン競技で長野県レディース連盟等の企画に携わっているが、その会議の際に必ず出る話が、上田市内の体育館は照明が暗いなど状態が良くなく、アクセスも難しいという事。県大会の会場を検討したときにまず除外されてしまう。また、大規模大会になると宿泊も伴うため、そうした面でも検討が必要。施設整備計画について、大規模な大会が開催できる施設になることを切に望む。場所も、高速道路 IC からのアクセスなど交通の便に配慮されたい。

副会長 先日、菅平のSPT（スポーツフィジカルセラピー）のプログラムを体験した。競技力を向上させる良いプログラムと感じたため、ぜひとも有効活用したい。長野大学は4月から公立化され、地域と一緒にスポーツに対しても何ができるかを問われており、今後は大学の体育施設がもっと有効活用できればと考える。また、体育系の大学ではないため学生の利用率も高くなく、少し施設を持て余している印象。地域住民がもっと利用しても良いと思う。これまで長野大学はバレーボール、バスケットボールを強化指定としてきたが、入試の方法が変わり、スポーツ特別枠をAO試験の中に取り入れた。全国からインターハイ経験選手等も入学してきたが、望ましい環境で競技を継続できているとは言えない状況。来年度からはある程度、長野大学だけでなく、上田市としても強化するスポーツを決めて選抜していくことも必要ではないか。長野大学に入学すれば自分がやってきた競技スポーツを継続でき、しかもトップを狙えるような流れを作ることができればと思う。ソフト・ハードの両面で市と連携していきたい。

会長 施設整備に当たっては、スポーツ愛好者のみが使用するという従来の体育館のイメージではなく、憩いの場、集いの場としての総合的な施設、そして防災的な施設という観点も求められるのではないかと。大規模大会を開催するには、5,000人規模の収容が可能なアリーナ施設等が求められるが、これは予算面と併せて慎重に検討する必要がある。各委員におかれては、本日の資料をよく読んでいただき、多自治体の状況も研究しながら、今後の計画づくりに反映させてほしい。全体を通して他に何かありますか。

委員 (なし)

(3) その他

事務局 上田市スポーツ推進審議会条例では「専門的な事項について必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ意見を求めることができる」との規定があり、今後、総量コントロールの視点から、例えば行財政に精通した方など、必要に応じて専門委員を設置したいと考えているがどうか。

委員 (異議なし)

6 閉会（教育次長）

教育次長 上田市は類似自治体と比較してスポーツ施設は多い。それぞれ非常に老朽化しているが、この少子化の時代に現在の施設を全て維持することは困難。財源確保や規模の圧縮も課題。ラグビーワールドカップ等大規模な大会が控えているが、開催後の後利用も考える必要がある。検討事項は多くあるが、ソフト面も含め、今日の意見や今後の審議をいただく中でより良い整備計画を策定できればと考えている。本日はありがとうございました。